

心あてに  
それかとぞみる白露の

ひかりそつたる  
夕顔の花

ものあはれ源流(の流)  
全五十四帖連続語り

京しとば

源氏物語

❖女房語り  
山下智子

第四回

夕顔  
の巻

四帖

二〇二四年

二月十七日(土)・十八日(日)

【開演】午後三時

【場所】

アトリ工第Q藝術

ものあはれ—源流への旅

日本の複雑に移り変わる自然環境を生  
き抜いてゆく智慧として、先人達は風土に  
培われた独特の感性を「ことば」に託して  
きました。

源氏物語には、目に見える物見得ないも  
のその感触や間合いに、触れずして触れ、  
香を聞くように五感を以て感覚を巡らせ実  
感してきた当時の人々の息づかいが、生き生  
きと感じられます。後の世に、心静かな浄土  
を思い描いた平安人。語りの担い手であつ  
た女房(女官)の間わず語りによる源氏物語  
は、私達日本人の心の原風景に出逢う旅で  
もあるのです。

女房語り 山下智子

山下智子プロフィール  
京都市出身、仲代達矢主宰無名塾に学び、三島由紀夫近代能楽  
集「道成寺」「熊野」はじめ舞台、TVにて活動。2003年より声  
の表現中心に活動。NHKラジオドラマレギュラー出演と作品提供、  
朗読劇、映像番組、文楽人形芝居での語り、電子辞書、大修館書店  
国文教科書CD等の朗読。

「京」とは源氏物語の女房語りを通し、失われゆく美しい京ことば、  
やまとの心を後世に伝えるべく各地で語り会をひらき国内のみならず  
海外でも好評を博している。東京、京都で全五十四帖連続語り会を開  
催。京都観光おもてなし大使。  
<http://www.genji-kyokotoba.jp/>

国文学者中井和子先生  
生粋の京女。府立大学で中古文学の教鞭を執りながら十五  
年の歳月をかけて源氏物語全五十四帖を今から百年程前の  
京ことばに全訳されました。失われつつある京のことばや感  
性を後世に残すために源氏物語ほど相応しいものはないかと  
一人の京都人として誇りに思います。2009年1月永眠。

京ことばで語る『源氏物語』

山折哲雄

宗教学者 山折哲雄先生



感染症予防に十分配慮し、開催致したいと思えます。ご理解とご協力をお願い致します。

『源氏物語』五十四帖を「京ことば」で語る山下智子さんが、これまで誰  
もやらなかったこの大仕事を始めてから、もう十年\*になります。NHK  
ドラマや芝居でキャリアを積まれた山下さんは、この京都の地を舞台に、  
現代に甦るまれな女房語りとして新たな挑戦をはじめることになりました。  
『源氏物語』のほんとうの魅力、美しい京ことばのリズムにのせて、人々  
の耳に、そしてそのころにとどけようというのです。谷崎潤一郎や与謝野  
晶子の現代訳ではとても経験することのできなかった『源氏物語』の奥座  
敷の光景を、こころゆくまで味わっていただくというわけでありませぬ。  
山下智子さんの、この大胆で健気な試みを応援して、ここに推薦の辞を  
のべる次第であります。  
\*二〇一六年筆

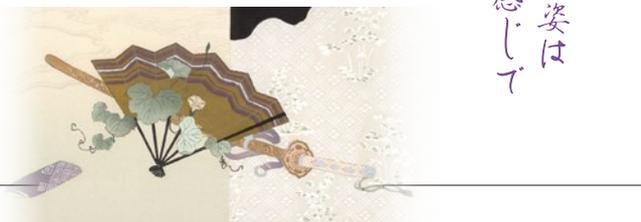
『白い裕の上に、薄紫の柔らかな上着を重ねて  
華やかにはおん姿は  
ひどう可愛らしゅう、なよなよした感して  
ど、というてすれたともおんけど  
ほっそりとなやわで、ものを言う気配は  
「ああ、いじらしい」とただただ可愛おす。

「夕顔」の巻より

四帖 【夕顔】あらすじ

帝の御子でありながら臣下となった源氏の君は、  
亡くなった母桐壺更衣にそっくりであるという藤壺  
の女御に思いを募らせる(第一帖 桐壺)。雨夜の  
品定め(第二帖 帚木)で中の品の女に興味を抱  
いた源氏は、方違えにこと寄せ忍んだ空蟬に、  
再び逢うことを拒絶される(第三帖 空蟬)。  
十七歳の源氏はある日、夕顔の花咲く粗末な家に住まうたお  
やかな中の品の女・夕顔に出逢う。お互いの素性を隠して逢う  
うちに源氏は女にのめり込む。一方、源氏の年上の恋人である  
六条御息所はお通いが絶えたことに苦しみ、忍びきれない情は  
ついに月をも隠し、二人が一夜を過ごす六条辺りの某院にも  
のけとなって現れ、夕顔をとり殺してしまふ。

源氏の忠臣惟光の働きにより夕顔の遺骸は秘密裏に東山の寺  
に運ばれ、表沙汰となることは免れたが、若い源氏の悲しみは  
深く、夕顔の侍女右近を自邸二条院に引き取り亡き夕顔を偲ぶ  
のだった。



全五十四帖連続語り / 女房語り・山下智子

京ことばで語る『源氏物語』

毎月連続公演 第四回

二〇二四年

四帖 夕顔 二月十七日(土) 十八日(日)

場所 アトリエ第Q藝術 1Fホール [www.seijateierq.com](http://www.seijateierq.com)

開演 午後二時(開場午後二時三〇分) ●始めにあらすじ解説を致します。

料金 予約三五〇〇円/当日四〇〇〇円 (全自由席)

御予約 紫苑語り会(前日20時まで)

ネット予約 [www.genji-kyokotoba.jp](http://www.genji-kyokotoba.jp)

(東京語り会)のフォームから)

電話: 090-98263-8042

\*御名前、人数、御電話番号、何日の会をお知らせください。

間違いないとけませんので、ゆつくりと明瞭にお話し下さい。

アトリエ第Q藝術へ 電話: 03-6874-7739 (13時~20時月曜定休)

主催 紫苑語り会

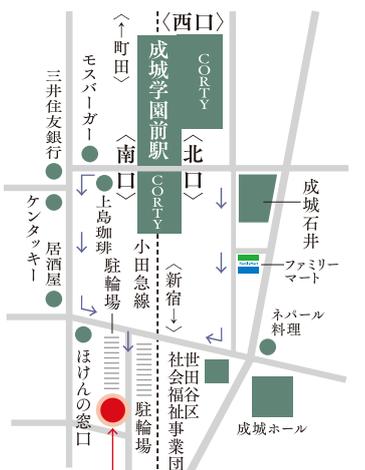
後援 昔馴染入紫式部顕彰会、古典の日推進委員会、ジャポニスム振興会、世田谷区

◎訳: 中井和子 ◎音楽: 天地空ほか ◎照明・音響: 早川誠司

◎協力: アトリエ第Q藝術、株式会社大修館書店、池澤正晃、高山なおき、

田上恵美子、宮川保子、智子の友組 ◎宣伝美術: 鈴木術

◎次回第五帖「若紫」は4月20日(土)21日(日)に開催します。



アトリエ第Q藝術 〒157-0066 東京都世田谷区成城 2-38-16

\*小田急線 成城学園前駅・中央改札(北口・南口)より 徒歩3分 小田急成城学園前 第1駐輪場となり

[電車] 小田急線・新宿駅より急行で16分。その他、準急、千代田線多摩急行も停車致します。  
**(※快速急行は停車いたしません。お気をつけください)**



スマホでお申込みの方は こちらのQRコードから→

